

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 22年1月8日

1. 概要

実践団体名	宮城県丸森町立 丸森東中学校		
連絡先	0224-78-1414 (丸森東中学校)		
プランタイトル	まる ひがし ちゅう かい えん たい 丸 東 中 ・ 改 援 隊 地域防災対策活動プラン		
プランの対象者	中学生、地域住民、 教職員、保護者	対象とする 災害種別	地震、水害

【プランの目的・ここがポイント！】

他地域から災害救助支援が及びにくく公的災害救助体制が十分に整わない、少子高齢化の中山間地域において、自らの地域防災力を高めるため、中学生・学校と地域住民からなる学校支援組織が主導となり、自助と共助の方策等を構築し、個々の防災意識と防災対策・災害対応機能を向上させる。併せて、中学生が核となる教育実践を、地域住民を巻き込む活動に発展させ、住民間の協働体制に進化させて持続可能な地域社会づくりとその活性化を図る。

【プランの概要】

- ① 中学生・学校と学校支援組織が実施主体となり、多彩な団体・機関等の支援と協力を得て地域防災訓練を行い、その効果・成果や問題・課題を分析し、自助と共助の方策等と可能性を追究する。(H21は平日の日中に大規模地震を想定、H22は休日の日中を想定)
- ② 中学生と地域住民が、地域防災訓練や大学等の専門家による講演等を受け、防災教育を共に学ぶ。また、中学生がその成果や課題等をまとめ、地域住民や保護者等を対象とする成果発表会を設け、地域ぐるみで防災意識・知識と防災力を高める。
- ③ 中学生が地域の危険箇所や避難所への経路を確認し、地域防災マップ・ハザードマップを作成して地域住民に提供する。
- ④ 中学生が体験や調査等を通して学んだ防災教育の成果を下に、町議事堂を会場にして模擬議会を開催し、本町の町長や教育長、議員等に提案と質疑を行って、町の将来に向けた提言を議決する。
- ⑤ 本校は学校支援組織による農業体験学習も実践しており、生徒が栽培、収穫・加工する米、味噌、梅干し、たくわん等を避難所である本校に非常食として備蓄する。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

本校の防災教育の取組は、以下に示す期待される効果を生ずる可能性が高いと考える。

- ① 学校と中学生が地域貢献を強め・深め、地域の信頼と協力・支援を向上させる教育実践
- ② 中学生を含む地域住民の防災意識を高め、災害時における自助と共助の方策等を構築
- ③ 中学生や地域住民間における関係と絆を助長・促進し、地域の活性化と持続可能な地域社会づくりに影響・反映
- ④ 少子高齢化の中山間地域における安全・安心な地域形成と、将来に向けて地域再生・発展に資する可能性のある教育実践

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2009年 3月	地震災害等の状況や中学生が地域貢献した事例等と期待される活動内容を学習する目的で講演会を開催する。	目的・内容を実現するため、最適な講師の情報収集と講師依頼、開催日程等の調整を図る。	講演会○講師：宮城県仙南保健福祉事務所・副所長 本間 照雄 氏 ○演題「中学生にできる地域防災」 ○内容：地震災害の状況、中学生による地域貢献の事例とその活動内容
2009年 4月	地域住民による学校支援組織を設立し、中学生とともに地域防災訓練を計画・準備をする。	中学生と支援組織の方々が検討・協議する日時を決定し、依頼する。	中学生と支援組織の方々が一緒に会議を開き、地域防災訓練の係分担とその仕事内容を決め、計画を立てて準備活動を5月の訓練まで行う。
2009年 5月	平日の日中に大規模地震が発生したことを想定し、多様な機関等の協力の下、地域防災訓練を実施する。	14ほどの各種団体・機関に協力・支援を依頼し、訓練に必要な物資・展示等の準備を行う。	5月22日（金）の午前に地域防災訓練として避難所開設、炊き出し調理、保健・救護、地域巡回の4つの係活動と協力団体等の展示・実演。午後に講演・シンポジウムを開催。
2009年 6月	中学生が講演や調べ学習、地域防災訓練等の成果や課題をまとめ、発表する準備を行う。	中学生が学習成果等を整理してまとめ、発表のためのプレゼンを作成する。	中学生が地域防災で貢献できる内容や講演・訓練等で学んだことをまとめ、発表会で使用するプレゼンを作成する。
2009年 7月	中学生が保護者や住民等に学習実践の成果を発表し、防災意識の向上と成果を共有する。	休業日（土）に授業参観として発表会を開催し、保護者等に参加依頼をする。	中学生が地域防災訓練の係ごとに分かれ、学習や体験して学んだ成果・課題等を発表し、中学生が考えた地域防災スローガンを公表する。
2009年 10月	中学生が必要性と重要性を認識した上で、地域防災マップ・ハザードマップを作成する。	中学生が地域調査し、コンピュータでマップを作成する指導・支援を行う。	中学生が地域を巡り、安全や危険な箇所を調査し、目印となる建物や樹木等を書き入れてマップを作成する。また、避難所までの経路も示す。
2009年 11月	中学生が町・模擬議会の開催のため、本町の将来に向けた防災等の議会提案をする準備活動を行う。	町議事堂の下見し、議会の流れや実施方法等を指導する。また、班毎の提案内容を助言指導する。	これまでの防災教育を総括し、中学生が考える地震対策や防災意識の向上策を含め、町の将来を構想して議会提案する。そのため、班に分かれて検討・協議する。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2009年 12月	中学生が町・模擬議会を開催し、町長や議員、教育長等の参加の下で、提案・質疑を行う。	提案説明のプレゼンの作成と準備、町長・議員等への出席依頼・説明を行う。	中学生が議長、議員役になり、議会質疑を行うとともに、町長や議員に答弁等を求めたり、教育長の講評を受けたりして、模擬議会を行う。
2010年 1月	取組成果を積極的に外部発信	取組概要・成果を報告書等にまとめる	ユネスコ・スクール活動や毎日新聞ぼうさい甲子園等に報告・応募

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	講演会「中学生にできる地域防災」
実施月日（曜日）	平成21年 3月14日（土）
実施場所	本校・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：外部講師 氏 名： 本間 照雄 所属・役職等： 宮城県仙南保健福祉事務所 副所長
所要時間または「コマ数×単位時間」	13：30～14：30
プログラムのカテゴリ、形式	3 講演会・シンポジウム 4 総合的な学習の時間
活動目的	6 防災に関する知識を深める
達成目標	地震災害等の状況を知り、中学生が地域貢献した事例等や、中学生に期待される活動内容などについて学ぶ。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、講師の選定・・・講師の情報収集、日程調整の依頼、派遣依頼 2、講演会の開催 （1）演題「中学生にできる地域防災について－大切な命・地域を守るために－」 （2）講演概要 ①はじめに：日本は災害が発生しやすい条件下にある ②地域防災をとおして学ぶ ・過去に学ぶ：昭53 宮城県沖地震からの大地震の状況 ・経験を継承する：隣近所の助け合いの必要性 ・体験、学びから行動へ：被災体験と中学生の活動事例 ③地域での支え合い：互いに支え合う地域社会の構築が必要 ④まとめ：中学生に出来ること、中学生は頼りにされる存在 3、ワークシートによる生徒の感想・意見の記載
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	プレゼンに使用するコンピュータ、プロジェクタ、スクリーン
参加人数	本校の全生徒56人（3月7日に卒業した3年生も含む） 保護者32人、教職員12人
経費の総額・内訳概要	なし

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

成果と課題	<p>【成果】生徒自らが防災意識に目覚め、地域社会に自らが貢献する必要性を認識することができた。</p> <p>【課題】学んだことが実践活動としてどの程度役立つか、さらに未体験な災害を想定した具体的な防災訓練がどの程度可能か。</p>
成果物	生徒へのアンケート集録集

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	丸森東中学校の学校支援組織「丸東・改援隊」の設立総会
実施月日（曜日）	平成21年4月18日（土）
実施場所	本校・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：校長、公民館長 氏 名： 高橋 教義、森 陽吉、高橋 英熙 所属・役職等：丸森東中学校、金山公民館、小斎公民館
所要時間	11:40～12:30
プログラムの カテゴリ、形式	1 イベント・行事 8 その他学校内での時間
活動目的	3 災害に強い地域をつくる 10 その他（中学生の防災教育に、地域住民が支援・協力）
達成目標	中学生が地域住民の支援・協力の下で、防災教育を学び、実践する意識・意欲を向上させる。
実践方法・進め方 （箇条書き、または フロー）	<p>1、組織設立までの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①防災教育を実施するため、校内企画委員会にて学校支援組織の設立を企画・構想（校内でH20.8から企画書作成、検討・協議） ②設立準備の検討会（H20.10.24に金山と小斎公民館長で検討） ③PTA役員との設立準備検討会（H20.11.11にP役員と協議・検討） ④公民館・P役員の合同検討会（H20.11.27開催、組織と人選） ⑤第1回設立準備会（H20.12.13開催、組織役員の選出、設置要綱の検討） ⑥第2回設立準備会（H21.2.14開催、組織委員による活動計画・組織の検討、追加委員の選定等） ⑦第3回設立準備会（H21.4.4開催、活動計画の審議・決定と部会の所属委員の選出等） ⑧設立総会（H21.4.18、PTA開催日に生徒と保護者が参列し、支援組織の委員に任命状伝達、組織説明、隊長や生徒代表の挨拶） <p>2、学校支援組織の組織</p> <pre> graph LR A[学校支援組織
<丸東・改援隊>] --- B[地域防災部] A --- C[地域伝承部] A --- D[農業体験] B --- B1[防災教育や地域防災訓練等の実践] C --- C1[地域伝統文化・芸術等の伝承] D --- E[栽培・生産部] D --- F[加工・商品開発部] E --- E1[米、野菜等の栽培生産] G[<事務局>] --- A G --- H[丸森東中学校] </pre>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

漬物等の加工・開発

販 売 部

生産・加工商品の販売

隊員はほとんどが 60 歳を超えて現役を退いた地域住民の方々である。各部に所属する人数と隊員の役職は表の通りであり、この他に名誉隊長、隊長、副隊長そして各部に部長と副部長がいる。

- ・名誉隊長 公民館長（金山・小齋）、校長〔3名〕
- ・隊長 本校 PTA 会長〔1名〕
- ・副隊長 町シルバー人材センター事務局長、地区振興協議会副会長、本校 P 副会長〔3名〕

※〔 〕の係は、地域防災訓練時の担当係を示す。

部 会 名	人数	部に所属する方々の主な役職
地域防災部 〔災害対策本部〕	6 人	防犯協会長、地域消防部長、婦人防火クラブ会長、自治会副会長など
地域伝承部 〔応急・救護〕	8 人	神楽保存会長、図書館運営委員長、町出張所長、元高校教員など
栽培・生産部 〔災害状況収集〕	7 人	土地改良区理事、地域行政区長、地域消防団後援会長など
加工・商品開発部 〔炊き出し調理〕	7 人	JA 地域女性部長、食生活改善推進員代表、振興協議会副会長など
販売部 〔避難所・運営〕	4 人	シルバー人材センター事務局長、地域直売所副会長、民生委員など

4 月の設立総会後にも、協力・支援していただく隊員が随時増えております。

3、設置要綱

第 1 条（目的）、第 2 条（教育活動目標）、第 3 条（組織）
 第 4 条（役員会）、第 5 条（役員任期）、第 6 条（設置部会）、
 第 7 条（事業内容）、第 8 条（企画・運営）、第 9 条（事務局）
 第 10 条（守秘義務）、第 11 条（委任）、第 12（要綱の見直し）
 附則（施行期日）

**準備、使用したもの
・人材・道具、材料等**

参加者 : 組織の方々、全校生徒、保護者、教職員
 準備物 : 公民館長と校長の連名からなる任命状

参加人数

組織の方々 38 人、生徒 49 人、保護者 42 人、教職員 12 人

経費の総額・内訳概要

なし

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

成果と課題	<p>【成果】中学生が地域住民の支援や協力を得て、防災教育や農業体験学習など新たな学習活動に取り組む意識と意欲付けを行うことができた。</p> <p>【課題】これまでに経験のない体験活動等の学習に取り組むことに対する期待や不安が生じていた。</p>
成果物	<ul style="list-style-type: none">○生徒や教職員、保護者や地域住民が正式に認める学校支援組織の設立とその設置要綱の制定○学校を組織的に支援する人的資源

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	地域防災訓練と講演会・パネルディスカッションの開催
実施月日（曜日）	平成21年5月22日（金）
実施場所	本校と本校学区、金山公民館、小斎公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：学校支援組織、大学教授、自衛隊など 氏 名：斎藤 秀幸、徳山 明、八島 進 所属・役職等：学校支援隊長、兵庫教育大名誉教授、 陸上自衛隊船岡駐屯地第2施設団司令職務室長
所要時間または「コマ数×単位時間」	10:00～16:30
プログラムのカテゴリ、形式	16 避難・防災訓練 4 総合的な学習の時間 3 講演会・シンポジウム 17 展示・実演等の見学体験学習
活動目的	4 災害を想定した訓練 → 午前地域防災訓練 6 防災に関する知識を深める → 午後講演会・パネル
達成目標	中学生と学校支援組織の方々が連携・協力して、地域防災訓練を実施することで、中学生の役割と活動内容の可能性と限界を追求し、成果・課題の検証を行う。その際、避難所設営・運営、避難者の避難所（集合場所から本校）への誘導、炊き出し調理と配給、救護・応急処置、被害状況の情報収集に係り分担し、それぞれの計画・実行性と係活動間の連携・関連性、災害本部の機能性等を評価・分析する。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>1、訓練実施までの学習・準備活動（H21.4月上旬～）</p> <p>①関係する各機関・団体等への参加協力や支援の依頼 丸森町総務課、社会福祉協議会、防災婦人クラブ、防災ボランティア、県トラック協会、陸上自衛隊、地区消防団など</p> <p>②講師の選定と派遣 専門的な視点と視野から、中学生の防災教育に秀でた実践的研究をしているとともに、地域防災訓練に的確な指導・助言や評価ができる大学教官等を選定し、派遣を依頼する。</p> <p>③地震災害ビデオによる学習（H21.5.1） 中学生がドキュメント・ビデオを見て、地震による被害、救助、避難所等について知り、防災訓練の重要性と必要性を認識し、意欲づけられ、訓練内容や方法等について考察する。</p> <p>④中学生による防災訓練の活動計画・内容等の検討と係り分担（訓練計画と係活動内容の検討と協議）</p> <p>⑤中学生が支援組織の方々に防災訓練を説明して検討・協議 中学生が支援組織の方々に、役割分担の説明と活動内容を説</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

明する。支援組織の方々が中学生に質疑して、訓練内容等を確認する。(H21.5.19と20)

⑥担当教員と支援組織の各部長による検討会(随時開催)

2、地域防災訓練と講演会・パネルディスカッション開催

(1)実施日 平成21年5月22日(金)10:00~16:30

(2)想定する災害発生日の状況

ア、平日の日中に地震等の激甚災害が発生

イ、本地域は兼業農家が多く、近隣の町に働きに出ているため、平日の日中には、本地域はほとんどが小中学生と高齢者になる

(3)実施主体と協力・支援団体

実施主体：丸東・改援隊、丸森東中学校、金山公民館、小斎公民館

協力・支援団体：陸上自衛隊船岡駐屯地、丸森町社会福祉協議会、同町総務課消防防災班、同町婦人防火クラブ、同町防災ボランティア、同町教育委員会、地区消防団、県トラック協会、兵庫教育大学スクールパートナーシップ事業部

(4)参加者について：参加者総数203人

[中学校区の戸数745程度]

中学生49人、学校支援組織38人、教職員14人、保護者9人(平日開催のため)、避難所(体育館)への地域住民の避難者76人、小学生12人、他校教員5人

(5)生徒と学校支援組織の係と活動内容

	係名	改援隊の担当の部	生徒数	活動内容
1	災害対策本部	地域防災部		活動情報の集約と指示
2	災害状況・情報収集	栽培・生産部 7人	11人	○隊員と生徒がペアになり各戸を回りチラシ配布 ○公民館から参加者を避難所に誘導
3	避難所設営・運営と受付	販売部 4人	20人	○避難所の設営作業(畳、マット) ○避難者の受付・名簿チェック ○ビデオ上映と展示説明 ○避難者のトイレ等の誘導・案内 ○親族等からの問合せ連絡など
4	炊き出し	加工商	14	○食材の準備と調理(おにぎ)

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	し調理	品開発 部 7人	人	り・豚汁) ○参加者への配膳 ○非常食の試食・配給
5	保健・ 救護	地域伝 承部 8人	4 人	○体調不良、ケガ人等に応急処置 ○避難者を巡回して健康チェック・相談対応や話し相手など

(6) 実施内容

	内 容	実 施 概 要	同時開催内容
10:00	参加者の避難所への移動体験	公民館から丸森東中学校へ徒歩で移動	隊員と生徒が避難参加者を引率誘導
	防災訓練と講演会等の参加案内チラシ配布	生徒と隊員が各戸を回り、広報チラシを配布・案内	各戸を回って訓練参加を呼びかけ
11:00	避難所の体験・見学(防災ビデオ視聴・防災関連物品の展示)	本校の体育館で避難所体験 防災ビデオ上映	11:00~13:30 陸上自衛隊の船岡駐屯地の方々が、避難所で使用する器材・備品を展示
12:00	炊き出し試食体験	炊き出しの試食(おにぎり、豚汁)	(テント、炊事
13:00	自衛隊器材等の展示・体験		車、散水車、司令車等)
30	地域防災の講演会	講師:兵庫教育大学(元副学長)名誉教授 徳山明氏	演題「災害時の学校の役割ー阪神淡路大震災に学ぶ」
14:40	パネルディスカッション	自衛隊、生徒、公民館長、校長によるパネル討論会	題目「地域防災を話し合おう」

[パネリスト] 兵庫教育大学・名誉教授、本校中学3年生、公民館長、陸上自衛隊・司令職務室長、(司会) 校長

3、地域防災訓練のアンケート調査と分析の結果

(1) アンケート調査の方法

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

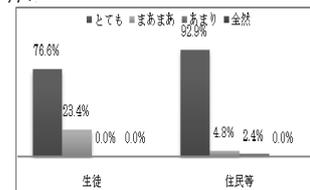
- ① 調査日 地域防災訓練の実施日(平成21年5月22日)
- ② 調査 質問紙法(尺度4件法)
生徒:16問、参加者:15問
- ③ 対象者 本校生徒49人、参加者43人
- ④ 集計結果の概要〔詳細は別紙・配付資料「平成21年度 地域防災訓練のアンケート調査の集計・分析」〕

生徒と参加者ともに、すべての調査項目について9割以上が良好な(「とても」と「まあまあ」を選択)調査結果が得られた。

以下に、参加者が選択肢「とても」を選んだ割合の高い順に、3つの調査項目を示す。

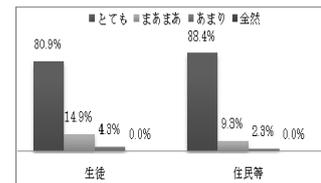
Q1、本日のような訓練に限らず、一般的に地域防災訓練を行うことは、必要と考えますか

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	36	11	0	0
住民等	39	2	1	0



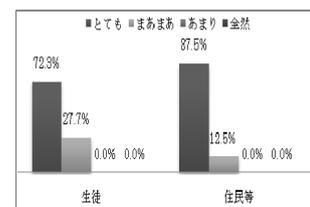
Q2、地域だけで行う防災訓練とくらべて、本日のように学校と公民館、そして地域住民が一緒になって防災訓練を行うことは必要と考えますか

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	38	7	2	0
住民等	38	4	1	0



Q9、中学生や学校が地域防災訓練に参加や協力することは必要と感じていますか

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	34	13	0	0
住民等	35	5	0	0



これらの調査項目は、生徒についても高い割合を示すものと一致し、参加者と同様に生徒が防災訓練を通じて得られた成果・効果である。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

これらの結果からは、地域防災訓練の必要性を示すとともに、その際には中学生と学校が地域と一体となって防災に取り組むことの重要性を検証できるものとなっている。つまり、地域防災においては、中学生と学校の役割が必要不可欠であり、地域貢献が期待されている存在であることが確認できる。

(2) 相関分析結果の概要

<中学生における調査項目間の相関分析>

- 生徒は防災教育を通じて、地域住民との関係性の高まりを感じる事ができた。
- 生徒は、地域・学校・公民館との連携した取組によって、地域の活性化や地域住民との絆の深まりを感じている。
- 生徒は、地域防災訓練に参加・協力することを通じて、防災教育の大切さを感じている。

<地域住民における調査項目間の相関分析>

- 地域住民は、地域や公民館、学校が一緒になって取り組む様々な活動が増えることにより、地域の活性化が推進されると強く認識している。
- 地域住民は地域防災訓練の必要性を感じており、その具体として学校・公民館・地域が一緒になって行う訓練をより必要と考えている。
- 地域住民は、地域防災訓練における中学生の貢献を高く評価し、実際に起きる地震等の災害において中学生の活躍を期待している。
- 地域住民は中学生が役割分担して訓練に参加・協力することにより、中学生との関わりに深まりを感じられている。
- 地域住民は、地域防災訓練に地域・公民館・学校が一緒に取り組むことを望んでおり、その際には中学生の参加・協力が必要であると感じている。

以上の相関分析結果からは、アンケートの集計結果に示したことが、されに裏づけされる分析になっている。したがって、地域の防災を考える上で、地域と学校、そして中学生がいかに連携し、協力・支援し合えるかが、将来の激甚災害に対応する地域としての大きな課題であることが検証できるものとなっている。

(3) 因子分析結果の概要

アンケート調査データの因子分析を行うと、次の通りの結果が得られた。因子分析では、因子 I が最も調査対象者（中

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

学生、地域住民等の参加者) の潜在的意識が強く、調査に影響していることを示すものであり、次いで因子Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとなるほど意識への影響力が弱くなる。

	因 子 名	
	中 学 生	地域住民等の参加者
因子Ⅰ	訓練の参加・協力体制	訓練の必要性と連携
因子Ⅱ	訓練による人々の関係	訓練の成果
因子Ⅲ	訓練の実施内容	参加・協力の体制
因子Ⅳ	訓練の成果	中学生の貢献

因子分析からは、調査に最も強く影響を及ぼしている内容が、中学生では、学校や公民館、地域住民が一緒になって訓練に参加して協力し合う体制を必要としていることが分かる。訓練に参加した地域住民等は、最も影響していることが、訓練の必要性と学校・地域・公民館等が連携して実施することにある。このことから、中学生も地域住民も、ともに地域の多様な方々が協力・連携することを最も必要であり、重視していることが検証された。

その次に影響力を及ぼしていることが、中学生では地域住民と中学生の関わりの深まり等と多様な方々の関わりによる地域の活性化であり、地域住民等は訓練の成果を示唆している。そして、続く影響力としては、中学生が訓練の実施内容とその成果、地域住民等が協力体制や中学生の貢献について成果を示唆していることが検証された。

このように、因子分析からは地域防災訓練に学校と中学生が主体的に関わり、地域を挙げて取組むことで、参加・協力体制づくりと地域活性化、中学生や住民間の絆の深まりなど、多様な成果や効果が高まり得られることが確かめられた。

準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等

- 人材 地域住民、講師、自衛隊、学校支援組織、公民館長、関係機関や団体等
- 道具・材料等 自衛隊の装備等、非常災害物資、無線機、配布チラシ、防災ビデオ、プロジェクタなど

参加人数

参加者総数 203人 [中学校区の戸数745程度]：中学生49人、学校支援組織38人、教職員14人、保護者9人(平日開催のため)、避難所(体育館)への地域住民の避難者76人、小学生12人、他校教員5人

経費の総額・内訳概要

124,591円(講師の旅費・謝金、通信費、印刷費、紙代、保険料等)

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

成果と課題	<p>【成果】中学生と学校、支援組織が地域防災訓練を実施することで、地域の防災意識と防災力を高め、災害時における中学生と学校の役割と活動内容等の可能性を実践によって検証している。</p> <p>【課題】少子高齢化の中山間地域において、自助と共助の方策をいかに構築し、学校と中学生が果たせる役割と限界を追求する。</p>
成果物	<ul style="list-style-type: none">○中学生・学校が主導する地域防災訓練プログラム○実施報告書（実施計画・内容、調査分析結果など）

防 災 教 育 チャレンジプラン 最 終 報 告 書

【実践プログラム④】

タイトル	中学生による地域防災訓練の成果発表会
実施月日（曜日）	平成21年7月11日（土）： 授業参観日と学年PTA集会日
実施場所	本校・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校・防災教育の担当教諭 氏 名： 斎藤 真司、渡辺 仁 所属・役職等：丸森東中学校 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	13:30～14:20
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事 4 総合的な学習の時間
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域防災訓練を平日の日中に実施したため、保護者の参加者が少なかった。このことから、生徒が地域防災訓練の活動内容や成果等をまとめ、より多くの人々に周知を図り、防災スローガンを考えて発表することにより、災害に強い地域づくりを目指して発表会を行う。また、生徒自らが訓練の成果や課題を見直し、評価することで改善策等を考え、防災に対する意識と実践力を高める。
実践方法・進め方 （箇条書き、またはフロー）	<p>1、生徒が防災訓練の担当係ごとに、活動内容や成果・課題等を検討・協議し、プレゼンテーションを作成して発表練習を行う。</p> <p>2、保護者会の開催日に合わせて成果発表会を開催し、一緒に訓練を実施した支援組織の方々にも参加を求める。</p> <p>3、成果発表会の概要</p> <p>（1）開会</p> <p>（2）担当教諭による地域防災訓練の実施概要の説明</p> <p>（3）生徒による活動係ごとの活動内容と成果・課題等の発表</p> <p>①災害状況・情報収集係・・・各戸の巡回、避難所へ誘導 〈成果〉各戸の巡回により、当日に訓練参加してくれた 危険箇所の確認が疎かで避難ルートが安全でなかった 〈課題〉普段に年寄り宅の訪問や安全な避難ルート作り必要</p> <p>②避難所受付係・・・受付確認・報告、下足と上履き場所の誘導 〈成果〉計画にない臨機応変な活動、実体験で理解、自らの率先行動ができた、自ら改善策を考えることができた 〈課題〉避難者の動線表示を考慮、受付の有無を確認の不備 受付時の整列やスロープの必要性、安否確認への不安</p> <p>③避難所運営係・・・避難所の設営と運営 〈成果〉計画外にも進んで対応、避難所は事前準備だけで不</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	<p>十分であることを理解、車椅子の方への対応が大変 〈課題〉学校の備品だけでは不足、先生がいないときが不安、 地域の人との会話が不足、事前準備で対応が困難</p> <p>④保健・救護係・・・避難者の健康観察と応急処置 〈成果〉血圧測定や健康チェック等で避難者から感謝、地域 の人を気遣う声がかげができた、沢山のひとと会話 〈課題〉避難所のバリアフリー化やトイレ等の施設、お年寄 りに声が小さいときがあった、一斉対応に困難・困惑</p> <p>⑤炊き出し係・・・豚汁とおにぎりの調理と配給 〈成果〉短時間に多くのおにぎりを作る工夫、スムーズな調 理作業、協力する大切さと自分も役に立てることを知 った、地域の人と仲良くなる 〈課題〉本当の地震の時にできるか、支援組織の方を頼りに しすぎた、自ら気づいて行動</p> <p>(4) 生徒代表による地域防災スローガンの宣言 ・スローガン「みんなで築こう地域防災の和」を宣言 ・込めた思い：被害を最小限に食い止め、みんなで助け合うた め、普段から地域みんながつながりを大切にしたい。</p> <p>(5) 訓練当日のアンケート調査結果の説明 生徒と参加者に対する調査・分析の結果として、訓練の 必要性とその連携体制の整備を最も求めていることが検証 されたことをデータに基づいて説明している。</p> <p>(6) 校長による講評 より多くの地域住民を巻き込むことが、地域の防災力を 高める上で最も大切なことであり、中学校と生徒がその一 役を担うことが可能であり、必要なことである。</p> <p>(7) 閉会</p>
準備、使用したもの ・人材・道具、材料等	<p>○生徒が作成したプレゼンテーション・ソフト ○プレゼンに必要な機材（コンピュータ、プロジェクタ、スクリーン）</p>
参加人数	<p>119人（生徒49人、保護者45人、支援組織11人、教職員14人）</p>
経費の総額・内訳概要	<p>8,672円（色上質紙、PPC紙等）</p>
成果と課題	<p>【成果】成果発表会を開催することで、中学生が防災訓練で行った 活動内容と役割、その成果と課題等を報告し、保護者をはじめ とする地域の方々に防災訓練の必要性と地域が抱える課題等を 提起できた。また、住民等が中学生の地域貢献を認め、それに 触発され、地域の防災意識が高まる効果等も得られた。</p> <p>【課題】保護者集会の日に同時開催したため、発表時間が不足し、 生徒が発表する時間を十分に確保できなかった。また、保護者</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>や支援組織の方々だけでなく、訓練に参加した住民など、より多くの参加者を募るべきであった。</p>
成果物	生徒が作成した訓練の成果や課題等をまとめた発表資料とプレゼン

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	本校による丸森町・模擬議会の開催
実施月日（曜日）	平成21年12月9日（水）
実施場所	丸森町 議会議事堂
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭、丸森町議会事務局 氏 名： 大沼志津子・斎藤真司（教諭） 所属・役職等：丸森東中学校教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	14:00～16:00
プログラムのカテゴリ、形式	9 校外学習・移動教室 5 教科学習（社会）、4 総合的な学習の時間
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	本校生徒が町の議会議事堂を会場として模擬議会を開催することにより、議会の運営・質疑等を体験し、議会制度に関する知識と理解を深める。また、生徒が実践してきた防災教育の成果等を公表し、町長や町議員等に議案審議する。これらにより、生徒が構想する地域防災の取組に助言等を受け、議案の有効性や実現性を自ら評価・検証し、実践意欲の向上を図る。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>1、参加者</p> <p>全校生徒（1・2年生は傍聴）、教職員・保護者（傍聴） 町長、議長、教育長、教育次長、議員（傍聴）</p> <p>2、模擬議会の実施方法</p> <p>① 議長役の生徒が模擬議会を進行 ② 議員役の生徒が議案を説明 ③ 議員役の生徒同士で質疑・応答 ④ 一つの議案審議・終了ごとに町の議長等（昨年度は副町長）が助言等を行う ⑤ 教育長が講評</p> <p>3、今年度提案した4議案の概要</p> <p>①第1号議案「宮城県沖地震に備え、対策を立てよう」 生徒が行った住居の耐震診断の結果を公表し、簡易的な耐震診断の重要性と普及を議案提起・審議</p> <p>②第2号議案「地域の防災意識を高めよう」 防災訓練の不参加者に対する防災意識向上のため、生徒が作成する防災マップを各家庭に配布する議案提起・審議</p> <p>③第3号議案「地産地消のヘルシーメニューを考えよう」</p>

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<p>(防災教育・以外) 食の安全・安心や自給率低下などの問題克服のために地産地消を推奨する議案提起・審議</p> <p>④第4号議案「丸森の良さをPRしよう」</p> <p>(防災教育・以外) 町の魅力を発信して活性化を図る手段や方法を議案提起・審議</p>
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	<p>○人材 町長、議長、教育長、教育次長、議員</p> <p>○道具等 議案説明のプレゼンのためコンピュータ、プロジェクタ、スクリーンなど</p>
参加人数	74人(全校生徒、町長、議長、議員、議会関係者、教員、保護者)
経費の総額・内訳概要	7,970円(コピー用紙、インクカートリッジ)
成果と課題	<p>【成果】町長や議長、議員等が参加の下、模擬議会を町議事堂にて開催することにより、生徒が立案する防災等の議案を提起・審議することは、生徒の学習意欲や実践意欲を高めることになった。また、このことで、生徒による地域貢献の内容・取組を一層促進することができた。</p> <p>【課題】生徒は議案として実施困難な提起をしている内容もあり、実現には難しい内容も含まれている。</p>
成果物	生徒が作成した議案説明のプレゼンと資料

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム⑥】

タイトル	農業体験学習による避難所・備蓄用非常食糧の栽培・生産・食材加工																																															
実施月日（曜日）	平成21年4月～12月																																															
実施場所	本校、本校借用の田畑																																															
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校教諭、学校支援組織 氏 名：渡辺 仁（教諭）、斎藤秀幸（支援組織） 所属・役職等：丸森東中学校教諭、学校支援組織「丸東・改援隊」																																															
所要時間または「コマ数×単位時間」	81コマ×50分（1～3学年の各学年27コマ程度）																																															
プログラムのカテゴリ、形式	17 その他（農業体験学習：稲作、シソ・大根・大豆などの畑作） 4 総合的な学習の時間 5 教科学習（理科、技術・家庭）																																															
活動目的	10 その他（備蓄用非常食糧の栽培・生産・加工）																																															
達成目標	生徒が学校支援組織の協力と指導を受けて農業体験学習を実施し、避難所である本校に備蓄用・非常食糧として米、漬物（梅干し、たくわん）、味噌を栽培・生産・加工して備蓄する。																																															
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<p>「丸東・改援隊」による農業体験学習の年間実践概要</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>稲作の概要</th> <th>畑作の概要</th> <th>学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>施肥</td> <td>シソ種まき</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>代掻き、田植え</td> <td>除草</td> <td>調べ学習</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>除草</td> <td>シソ・梅の収穫</td> <td>観察・記録</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td></td> <td>梅干作り、大豆種まき</td> <td rowspan="2">東北大学での学習会</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>穂肥え肥料</td> <td>大根種まき</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>稲刈り、はせ掛け</td> <td>除草</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>脱穀</td> <td>大豆収穫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>〔精米〕</td> <td>大根収穫、</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>餅つき・雑煮作り しめ縄作り</td> <td>味噌作り、 たくわん漬け</td> <td>町・模擬議会</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>糺摺り</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	月	稲作の概要	畑作の概要	学習活動	4月	施肥	シソ種まき		5月	代掻き、田植え	除草	調べ学習	6月	除草	シソ・梅の収穫	観察・記録	7月		梅干作り、大豆種まき	東北大学での学習会	8月	穂肥え肥料	大根種まき	9月	稲刈り、はせ掛け	除草		10月	脱穀	大豆収穫		11月	〔精米〕	大根収穫、		12月	餅つき・雑煮作り しめ縄作り	味噌作り、 たくわん漬け	町・模擬議会	1月				2月	糺摺り		
月	稲作の概要	畑作の概要	学習活動																																													
4月	施肥	シソ種まき																																														
5月	代掻き、田植え	除草	調べ学習																																													
6月	除草	シソ・梅の収穫	観察・記録																																													
7月		梅干作り、大豆種まき	東北大学での学習会																																													
8月	穂肥え肥料	大根種まき																																														
9月	稲刈り、はせ掛け	除草																																														
10月	脱穀	大豆収穫																																														
11月	〔精米〕	大根収穫、																																														
12月	餅つき・雑煮作り しめ縄作り	味噌作り、 たくわん漬け	町・模擬議会																																													
1月																																																
2月	糺摺り																																															
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	○人材 本校の学校支援組織 ○道具等 草取り・稲刈り鎌、スコップ等の農作業道具																																															
参加人数	105人（全校生徒49、教員12、学校支援組織・保護者44）																																															

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

経費の総額・内訳概要	農水省「食育推進事業・教育ファーム推進事業」から経費支援
成果と課題	<p>【成果】 学校支援組織の協力と指導により、生徒は計画通りに農作業を体験学習して米、だいこん、大豆、シソ等を栽培し、たくわん、梅干し、味噌に加工することができた。このことにより、生徒は避難所である本校に備蓄用・非常食糧を保存・確保することができた。</p> <p>【課題】 これまで、本校は避難所に指定されていたが、備蓄用・食糧が確保されていない状況にあった。今年度、生徒が食糧を生産・加工して備蓄をしたものの、これだけの食糧で地域住民の避難に十分な対応ができないため、町の支援を得られるかが課題である。</p>
成果物	備蓄用・非常食糧（米、たくわん、梅干し、味噌）

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(1) 学校と生徒が持つ防災対策の機能の現状と可能性の追求</p> <p>(2) 地域の特性を生かした創意・工夫ある実践と可能な取組</p> <p>①少子高齢化の中山間地域における防災の在り方と可能性を想定した実践</p> <p>②この現況と課題を克服する、または逆に生かした防災の取組方法を模索</p> <p>(3) 地域特性を考慮した、想定する防災訓練の条件設定を考察</p> <p>ア、平日の日中に地震発生【平成21年度・実践】・・・働き盛りの年齢層は近隣の市町に働きに出て、地域に残っている人材は高齢者と児童生徒がほとんど</p> <p>イ、休日、平日の夜間【平成22年度・実践】・・・すべての年齢層が在宅</p> <p>(4) まずは教職員の意識と理解、協力・連携が必要であり、欠かせない</p> <p>防災教育にはカリキュラムも、教科書もないし教材も不十分であり、教職員の防災に対する熱意と意欲が、いざというときに生徒や地域を救うことに通じることを、全員が認識する必要がある。</p> <p>(5) 組織的、系統的、計画的、継続的な教育を行うためのプラン・プログラム、そしてカリキュラムの構築を目標とする。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>(6) 可能な限り、防災関係団体との協力・連携を図り、最も有効かつ適切な防災の方法・手段と実践的取組・訓練を行い、可能性の追求と検証を図る。</p> <p>・・・交渉には時間がかかり、調整に手間取る</p> <p>(7) 地域が求める防災、地域が抱える課題や問題を解決する内容と方法・手段を、準備活動しながら模索し、プラン・プログラムの逐次改善を図る。</p> <p>(8) 学校の取組に協力・支援する地域人材の選出：地域の人的・物的資源の情報収集と活用方法・・・いかに人的・物的資源を掘り起こすか</p> <p>(9) 中学生の社会性の育成を育む・・・年齢の違う人々と共に行動する、協力する、相談するなど、中学生が支援組織の方々との協働作業を実践</p> <p>(10) 行政の地域防災対策の現状：予算措置が教育委員会も町もない状況</p> <p>避難所は小中学校が指定されているが、非常食や避難所として必要な非常物資・食糧備蓄、スロープなど、避難所としての機能の整備が何もされていない。また、避難訓練は、地域ごとの自治体組織にお任せの状態</p>

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

実践に 当たって 苦労した点 工夫した点

- (11) 中学生・学校の地域貢献が地域の変革をもたらし、生徒自ら成長を果たす。
 - ア、中学生が核となる地域防災訓練をきっかけとして、持続可能な地域社会づくり、住民間の関係性を高め、地域のまとまりと協力・連携を情操する。
 - イ、地域貢献が学校の信頼性を高め、地域が学校に協力・支援を拡充。
 - ウ、中学生が、地域貢献により「やればできる」自らの自信を高め、人のために活動、人の役に立つ、人に感謝される、人に喜んでもらえる、人を思いやる等、感性と心を育成する波及効果をねらう
- (12) 教育実践の成果検証と課題・問題の抽出・・・アンケート、まとめ・発表、行動観察など、科学的なデータ処理に基づく分析方法（相関、因子、分散分析など）の活用
- (13) 学校・生徒、支援組織や他の機関・団体と、密接な連携・協力がどの程度はかれるか・・・中学生を活動の主役・核として学校教育で地域を巻き込んだ防災教育を最大限の効果を得る方策の構築に苦労
- (14) 中学生の存在は、地域防災の要になり得る・・・地域の地形や道、自然をよく知っているのは小中学生であり、危険なところ、避難所である学校内部など、活躍できる内容が豊富

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	兵庫教育大学スクールパートナーシップ事業部	地域防災訓練の助言・指導 講師とパネラー
	宮城県教育庁生涯学習課・義務教育課 スポーツ健康課	地域防災訓練の視察、 県教委ホームページに地 域防災訓練の記事掲載
	丸森町教育委員会	地域防災訓練の視察・助言
	丸森東中学校同窓会	地域防災訓練の視察・参加
	丸森町立金山小学校	小学5・6年生が訓練参加
保護者・ PTAの組織	丸森東中学校PTA役員	地域防災訓練の炊き出し、 避難誘導等を担当
	丸森東中学校・保護者	地域防災訓練に参加
地域組織	本校の学校支援組織「丸東・改援隊」	地域防災訓練の各係を担 当
	丸森町金山公民館・小斎公民館	地域防災訓練やその他の 行事において主催・連携
	丸森町金山消防団	地域防災訓練の避難誘導 支援と参観
国・地方公共団体・ 公共施設	陸上自衛隊・船岡駐屯地	地域防災訓練に、自衛隊の 防災装備と機器の展示・実 演、司令室長がパネラー
	丸森町社会福祉協議会	地域防災訓練に、救出用機 材・非常食の展示・試食 車椅子の参加者を引率
	丸森町総務課消防防災班	訓練視察と広報誌の取 材・記事掲載
	丸森町議会事務局	模擬議会の支援・協力
	宮城県保健福祉部社会福祉課	訓練視察
	宮城県仙南保健福祉事務所	講演会の講師派遣
	東北農政局消費・安全部	備蓄用非常食の栽培・加工 の支援・協力
企業・ 産業関連の組合等	宮城県トラック協会仙南支部	地域防災訓練に、トラック で緊急物資を搬入
ボランティア団体・ NPO法人・NGO	丸森町婦人防火クラブ	訓練視察・参観
	丸森町防災ボランティア	車椅子の参加者を派遣と

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

等		参観・支援
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	なし	

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ ン グ 最 終 報 告 書

7. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	<p>本校は地域住民からなる学校支援組織を設立し、学校とこの支援組織が地域防災と防災教育に取り組んでいることから、アンケート調査の分析により次のような成果を得ている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行政主体の地域防災とは異なり、生徒と地域住民は学校と支援組織が実施主体となる防災訓練の必要性和重要性を認識 2 本プランは、特に少子高齢化の中山間地域において、防災には中学生の地域貢献度とその期待が非常に高いことを検証 3 学校と支援組織、公民館等が連携することで、生徒と住民の防災意識と防災対応力が効果的に高まり、地域活性化に貢献 4 震災直後の自助、共助の必要性を、生徒と住民が共有・共感を目指した防災教育を展開・実践 5 防災に関わらず、学校と地域住民との絆の形成と、相互の多様な支援・協力に波及
全体の反省・ 感想・課題	<p>2009年度のこれまでの実践と中間報告会を受け、次のような課題を今後、解決を図る必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中間報告会の助言を生かし、地域の実態・実情に即した、効果的・効率的な防災教育と防災訓練を実施 2 今年度に培った訓練とその成果を拡充し、得られた課題を改善していく方策を検討・実施して、その成果・効果を検証 3 学校支援組織の協力・支援を検討し、中学生の防災意識・知識と意欲・貢献等の向上を図ると防災教育カリキュラムを構築 4 地域自治体等と多様な関係機関と、効果的・効率的な連携方策・体制整備を、学校が戦略的に構築し、地域防災を拡充・発展
今後の 継続予定	<p>今年度の実践成果を生かし、課題を解決するため、次年度には以下を考慮して実践継続する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域防災訓練の実施日を平日から休日に変更する予定である。このことで、昨年度は「平日の日中に地震発生」を想定した条件設定で行ったが、次年度には「休日の日中に地震発生」を想定する条件設定で訓練を実施する予定である。この条件設定の違いにより、次の条件が変わることになる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地震発生時に小・中学生とほとんどが高齢者の住民が学校区内にいる条件から、次年度には保護者や若い方々も在宅している条件に変わる。このため、保護者や近隣市町に勤めに出ている住民の方々も訓練に参加できる。 (2) 訓練日が平日から休日が変わるため、昨年度に参観や協力いただく関係機関・団体が、休日にどの程度の協力・支援をしていただくかが不透明になる。 (3) 多くの保護者に参加していただく可能性ができるため、その訓練や協力の内容等を検討・調整する必要がある。 2 地域防災訓練において、生徒の係活動内容ごとに、昨年度以上に各種団体と共に活動又は参観していただき、指導助言をいただく機会と時間をより多く設定する。 3 中間報告会・評価レポートを参考に改善を図る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 宮城県沖地震について、学識経験者から予想される被害について調査するとともに、過去の経験等の情報を収集し、より具体的な防災を検討する。また、生徒と学校支援組織の方々とともに、住民への聞き取り調査も行う。 (2) 少子高齢化の本校学区と同様な他地域において、本校のプランを活用や参考にしていただくため、発表や広報等の活動を積極的に実施する。その際、本校がユネスコ・スクールに加盟しているため、このネットワークも活用する。 (3) 本校の教育課程に防災教育を盛り込んでいるが、逐次検討・評価を実施（学校評価）し、検討・改善を図る。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

8. 自由記述欄 ①

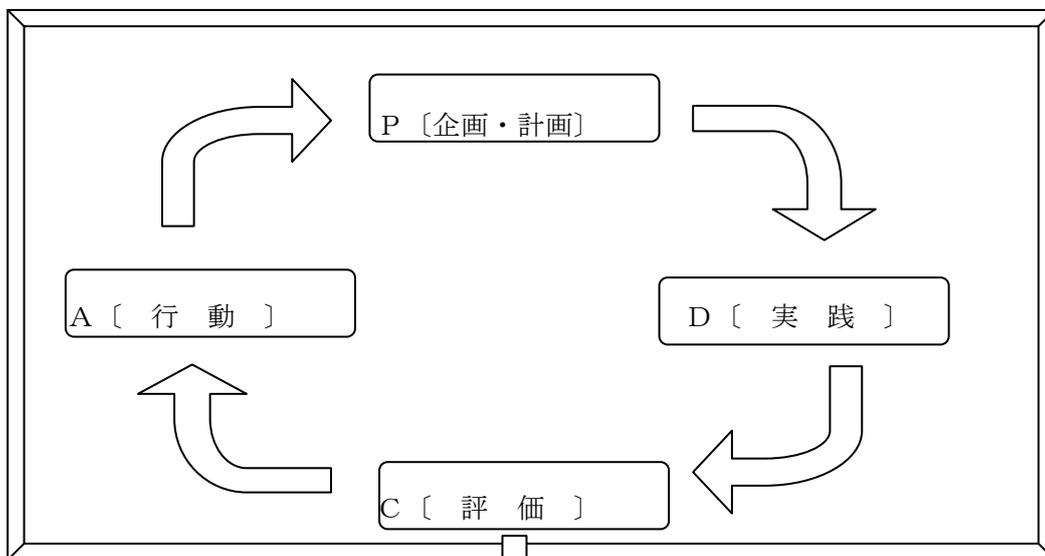
本校学区は、少子高齢化が進む中山間地域にあり、防災における自助や共助が衰弱化し、公助の手も困難な地域と考えられる。このようなことから、中学校とその生徒が地域防災に関与し、貢献することは必要不可欠な実態にある。また、本地域の実態から、学校が防災教育で地域に貢献することは、生徒や地域住民の防災意識を高め、災害時の協力と連携の必要性を示唆し、生徒を含めた地域住民間の関係性を強める効果がある。このことは、人々と地域の防災力を向上させ、地域の活性化をもたらし、ひいては持続可能な地域社会づくりに波及する可能性があるものと考えられる。そこで、本校が実践してきたプログラムの関わりを以下に整理し、中学校教育における提案プランとして示す。

	概 要	N0	実 践 概 要	実 施 内 容
P 企 画 ・ 計 画	防災教育の企画と 計画・内容の決定	P1	学校支援組織の設立 (連携・企画)	防災教育や農業体験学習を支援・協力をしてくれる地域住民を支援組織として募り組織を設立
		P2	事前学習としての講演会	事前学習として、講演「中学生にできる地域防災」を開催
		P3	生徒による地域防災訓練構想と計画・内容	生徒が訓練の計画と係活動等の内容を検討
		P4	生徒による学校支援組織に説明・協議	生徒が地域防災訓練の計画と係活動を学校支援組織に説明し、協議・検討
D 実 行	防災訓練と講演・ パネルの実施	D1	地域防災訓練の実施	中学生が主体的に関わる避難訓練、避難所開設、炊き出し等を、多様な機関の協力の下で実践訓練
		D2	講演・パネルディスカッションの開催	講演「災害時の学校の役割」と「地域防災に関するパネラー討論」を開催
C 評 価	生徒と住民による 訓練の評価と調査 分析	C1	生徒による地域防災訓練の成果発表会	生徒が係毎に活動した内容や成果・課題等を保護者に発表。地域防災スローガンを宣言。
		C2	地域防災訓練のアンケート調査結果の公表	訓練に参加した住民と生徒に調査した分析結果を説明
	中間発表会での評価	C3	防災教育チャレンジプランの中間発表	中間発表に対する実行委員会からの評価
	学校評価の実施と結果の報告・公表	C4	H19年の学校教育法と同施行規則の改正に定	防災教育の取組について、教職員による自己評価、生徒や保護

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

			められた学校評価	者を対象とする外部アンケートの実施・分析、保護者等による学校関係者評価を実施 評価結果は保護者、教委等に報告・公表している。
A 行 動	行政への模擬議会 提言とスローガン による実践活動	A1	町・模擬議会の開催	学習・実践成果に基づいて、議案提案を審議し、町行政に提言
		A2	地域防災スローガンと 議案提言による実践	防災マップ作成や耐震診断の 普及活動を計画・調査
	本校の取組を積極 的に公表	A3	ぼうさい甲子園に応募	毎日新聞社主催の本大会にて 受賞
		A4	オーライ・ニッポン大 賞に応募	応募による審査（結果は2月）
		A5	ユネスコ・スクール加 盟校としての活動	11月の宮城県大会で事例発表 今年度の取組を国内外に発信

以上のように、本校が今年度取り組んできたプログラムの関わりを表に示したように、次年度の防災教育の実施に向けて次の図のようにPDCAサイクルに基づき、教育活動の改善・発展を推進していく。



- 〈 少子高齢化が進む中山間地域における地域防災力を高める 〉
- 地域住民からなる学校支援組織と中学生・学校が主導となり、自助と共助の方策等を構築し、個々の防災意識と防災対策・災害対応機能を向上させる
 - 中学生が核となる防災教育を通して、地域住民を巻き込み協働体制を構築・進化させ、持続可能な地域社会づくりと地域活性化に寄与する

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

次年度の継続構想については、「7 成果と課題：今後の継続予定」に示している通り、想定とする地震発生を今年度の「平日の日中」から次年度は「休日、もしくは平日の夜間」に定めて地域防災訓練を行う予定である。その際には、以下の図に示すようにサイクルに基づいた改善・発展を図るプランを実践したいと考えている。

また、次年度のスタートである事前学習としては、「災害メモリアルKOB E 2010」に参加する教員の報告会を予定している。

【今年度の主な取組の写真】



実践プログラム①
講演会「中学生にできる地域防災」



実践プログラム②
「丸東・改援隊」の設立総会



実践プログラム③
地域防災訓練・講演会・シンポジウム



実践プログラム④
地域防災訓練の成果発表会



実践プログラム⑤
模擬議会の開催



実践プログラム⑥
農業体験学習